

ポートルネッサンス21計画 Q&A

これまでにどれくらいのお金がかかっていますか？

岸壁整備や土地造成、道路、緑地、ターミナル施設整備などに約127億円の費用がかかっています。

事業費の内訳や財源はどうなっていますか？

ポートルネッサンス21計画では、国が直接行う事業や本市が国等から補助金をもらって行う事業などさまざまな事業を推進しています。

国が直接行う事業は岸壁の整備などで約30億円の事業費となっています。

本市が直接行う事業は市港湾部庁舎（新みなとターミナルの一部）整備などで約5億円、国等から補助金をもらって行う事業は道路や緑地整備などで約39億円の事業費となっています。

また、旅客船ターミナルビル整備、駐車場整備などは、約52億円の起債（借金）事業で行っており、このうち、埋立地造成や水路整備、電線の地中化などは「臨海部土地造成事業」という起債事業で行っています。この事業は工事に要した費用（利子含めて約35億円）を土地の売却収入で返済することが前提となっており、本市では土地の売却を進めるとともに、民間企業等が参画したにぎわいと活力あるみなとづくりを進めています。

大型商業施設ができることで中心市街地に影響はありますか？

大型商業施設ができた場合、業種などが競合する部分については、他都市の事例からも中央商店街や市内の商業に影響がないとは言えません。しかし、県北地区の核となる都市として、市中心部の魅力を高め、市外からの交流人口の増大を図り、買い物客の市外流出を抑制するためには、新しい魅力づくりを行う必要があると考えています。また、中央商店街などとの連携を強め、市全体として活力とにぎわいのあるまちづくりに官民一体となって努力していく必要があると考えています。



て約6分を含む）を造成し、計画区域を「市民・観光客にぎわいゾーン」「定住空間ゾーン」など6地区に分け、開発区域を公募するなどして、順次、土地を分譲し、整備を進めています。平成元年9月に鯨瀬ターミナル、平成4年4月にさせぼシーサイドパーク、平成15年12月には新みなとターミナルがオープンしました。

「みなとまち」の再生
「佐世保駅周辺再開発事業」のメイン事業の一つが、駅西側の港に面した地域を整備する「ポートルネッサンス21計画」です。この計画は、昭和61年に策定し、物流などが主体であった港を市民や観光客が集い、にぎわいのある「みなとまち」へと再生することを目的としています。これまでに約12分（埋め立



着々と進む駅周辺再開発事業
JR佐世保駅と港が隣接し、佐世保の玄関口となっている佐世保駅周辺地区。本市では「心やさしい海辺のまちへ」をテーマとして、昭和60年から「佐世保駅周辺再開発事業」に取り組んでいます。駅周辺の交通、港湾、観光、情報、文化、商業などの機能を充実させて、人々の交流やにぎわいを促し、港と既存市街地を一体化させることで、中心市街地全体が活性化することを目指したこの再開発事業。これまでに駅前広場やアルカスSASEBO、鉄道高架化事業などが完成し、西九州自動車道の整備なども着々と進んでいます。

特集

ポートルネッサンス21計画と
中心市街地の回遊性向上に向けた取り組み

「港を生かした まちづくり」

「最近、佐世保のまちがすごく変わってきていますね。久しぶりに遊びに行きたくなりました」
佐世保駅周辺の再開発事業を紹介した広報テレビ番組の放送後、こんなお便りが市外から数多く寄せられました。確かにここ数年、本市の顔とも言えるこの一帯は、駅舎の建て替えや鉄道の高架化、駅前広場やアルカスSASEBOの建設、港に面した区域の埋め立て、西九州道路の整備など、大きな事業が次々と進められています。このように日々変化を遂げている駅周辺地区。今後はどのように進み、中心市街地の活性化へとつながっていくのでしょうか。今回は、港を生かした市中心部のまちづくりについてお知らせします。